

授 業 科 目	理学療法学総合演習	P53319	単 位	1 単位 (30)
開講学科等	理学療法学科 4年次 <後期集中>			
担 当 教 員	山本双一・栗山裕司・平賀康嗣・中野良哉・田頭勝之・山崎裕司・濱田和範・稲岡忠勝・片山訓博・重島晃史・明崎禎輝・清岡 学 ・高地正音・宮崎登美子・ 柏 智之	実務経験のある教員 による授業科目	○	
授業の目標	1. 基礎医学に関する正しい知識を深める。 2. 臨床医学に関する正しい知識を深める。 3. 標準的な理学療法に関する正しい専門知識を深める。 4. 標準的な理学療法の実技に関する正しい専門知識を深める。			
授業の主題・ あらまし	理学療法士国家試験に向けて準備を行う。国試の過去出題問題を一つ一つ解説し理解を深め応用力をつける。国家試験問題は理学療法士として必要な知識が網羅されているので、4年次までの学習内容を整理し体系化する。小グループワークでの学習を軸に、教員による講義、定期的な模擬試験を交えながら国家試験に向けての対策を行う。			
授 業 の 計 画	1	身体の構造機能学知識の確認と知識の整理	稲岡・重島	
	2	身体の機能生理学の知識の確認と知識の整理	稲岡・片山	
	3	運動学の知識の確認と知識の整理	片山・重島	
	4	神経機能障害の知識の確認と知識の整理	栗山・宮崎	
	5	内部障害の知識の確認と知識の整理	山崎・片山・明崎	
	6	運動器障害の知識の確認と知識の整理	山本・清岡	
	7	精神・心理機能障害の知識の確認と知識の整理	中野	
	8	病理学の知識の確認と知識の整理	稲岡・片山	
	9	理学療法評価・基礎治療学の知識の確認と知識の整理	栗山・稲岡・明崎・柏	
	10	日常生活支援学・生活環境論の知識の確認と知識の整理	田頭・山崎	
	11	義肢・装具学の知識の確認と知識の整理	濱田・片山	
	12	運動器障害理学療法学の知識の確認と知識の整理	山本・清岡	
	13	神経機能障害理学療法学の知識の確認と知識の整理	栗山・平賀・宮崎・柏	
	14	内部障害理学療法学の知識の確認と知識の整理	山崎・片山・明崎	
	15	発達障害理学療法学の知識の確認と知識の整理	重島	
授業の方法	講義 討議 グループワーク			
テキスト	『PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版』南江堂 『PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版』南江堂 『クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 共通問題』メディックメディア 『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 専門問題』メディックメディア			
参考文献	適宜配布			
評価方法	課題提出、受講態度、模擬試験により総合的に評価する。			
履修上の 注意事項	出席は必須のことであり、受講にあたっては授業内容の専門基礎科目、専門科目について復習しておくこと。模擬試験のスケジュールは、別途、掲示する。			

授業科目	卒業研究	P53319	単 位	2単位（60）
開講学科等	理学療法学科 4年次 <集中>			
担当教員	栗山裕司・平賀康嗣・山崎裕司・稲岡忠勝・片山訓博・重島晃史・清岡学 ・宮崎登美子・柏 智之	実務経験のある教員による授業科目	○	
授業の目標	理学療法に関する修学（臨床実習を含む）の総まとめとして、各自が研究題目（テーマ）の設定、研究計画の立案を行い、調査研究の実践を通して、最終的に「論文」としてまとめる。この過程の中で、担当教員および他の指導を受けることにより、将来の本格的な学問研究への糸口を発見する。			
授業の主題・あらまし				
授 業 の 計 画	1	【研究題目】		
	2			
	3	理学療法領域および関連領域に関する内容とする。		
	4	原則的には以下に挙げる内容とする。なお、題目の設定については担当教員と協議にうえ、決定する。		
	5	① 各自受講の3年次「理学療法応用セミナー」に関する内容		
	6	② 臨床実習を通して得た内容		
	7	③ ①②にかかわらず担当教員が適当と判断した内容		
	8			
	9			
	10	【研究計画】		
	11			
	12	① 研究題目（テーマ）の設定		
	13	② 研究計画の立案		
	14	③ 研究題目と研究の概要（アウトライン）の提出		
	15	④ 調査・研究の実践		
	16	⑤ 調査・研究結果の統合		
	17	⑥ 研究発表会での口述発表		
	18	⑦ 研究論文掲載のための原稿提出		
	19	⑧ 研究論文集発行		
	20			
	21			
	22	【論文規定】		
	23			
	24	*別に定めて、提示する		
	25			
	26			
	27	【発表】		
	28	① 卒業研究発表会で、発表する		
	29	② 規定に従い、論文を提出する		
	30			
授業の方法	演習			
テキスト				
参考文献				
評価方法	提出された論文のみでなく、卒業研究への取り組み姿勢や発表についても含めて総合評価する。			
履修上の注意事項	理学療法領域に関連した1研究テーマについて、3名を上限に1研究班を構成し、研究実践プロセスとその実践経験について真摯に取り組むこと。			

授 業 科 目	臨床実習	P53503	単 位	18 単位 (810)
開講学科等	理学療法学科 4 年次 <前期>			
担 当 教 員	山本双一・栗山裕司・平賀康嗣・大倉三洋・田頭勝之・山崎裕司・濱田和範・稲岡忠勝・片山訓博・重島晃史・明崎禎輝・清岡学・宮崎登美子・柏智之	実務経験のある教員による授業科目		○
授業の目標	<p>実践の場である実習施設において、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面を見学する。そしてまた、患者を診療する。このとき、特に治療に関し、それまでの知識を臨床に応用することを学ぶ。これにより、さらに知識・技能・態度とマナーの修得を目指す。また専門的職業人としての自覚を高める。</p>			
授業の主題・あらまし				
授 業 の 計 画	I 期	1. 「臨床実習の手引き」のなかの「臨床実習規程」、「臨床実習要綱」に沿って実施する。		
	II 期	<p>2. それぞれの実習施設において、その実習施設の特色ある内容について習得する。</p> <p>①臨床実習開始前に5回にわたりオリエンテーションをおこなう。</p> <p>②指導者および理学療法士の診療と業務の実際を見学する。</p> <p>③指導者よりの指導と助言を得ながら診療を実際におこなう。</p> <p>④能動的な学習をおこなう。</p> <p>⑤5月から9月までの間に、1施設9週間とし、2施設合計18週間でおこなう。</p> <p>⑥「臨床実習の手引き」のなかの「臨床実習規程」と「臨床実習実施要綱」および「臨床実習学生配置表」に定めた実習施設・病院で、定めた日におこなう。</p> <p>⑦臨床実習終了後に臨床実習報告会と症例学習（症例発表会）および実習判定試験をおこなう。</p>		
授業の方法	実習			
テキスト				
参考文献				
評価方法	臨床実習オリエンテーション、臨床実習報告会、臨床実習評価表、臨床実習日誌、症例発表会、臨床実習判定試験などより総合的に評価する。			
履修上の 注意事項	出席は1週間あたり5日間とする。また、休日は臨床実習指導者の指示に従う。			